▼そお小学校で児童に岩国寿司の作り方を 教える藤森さん (左)



れた景色だけど、お客さんはすごく喜 が見えるんですよ。 農家民宿を営んでいるのは藤森和子さ は築100年以上たつ古民家。ここで 「ここは朝は雲海、 私にとっては見慣 夜は満点の星空

は畳とふすまに囲まれた昔ながらのた んでくれます」。自宅兼民宿の家の中 の小 道を登っていくと、

が進み、耕作放棄地が目立ちます。 だね。ここで民宿か何かやってみたら したが、 と言われたことでした。初めは悩みま とき家を訪れた知人から「素敵な場所 われます」とほほ笑みます。 始めたきっかけは、 周囲を見渡すと集落は高齢化 夫が亡くなった 田田

ています」。

囲の協力を得ながら76歳 が好きなように生きよう」。 らが一人になっても、 背中を押しました。 荒れて山になってしまう」。 ときに開所しました。 くれる仲間を4人集め、 夫が生前言っていた言葉が 今なんとかしないとすぐに それからは一緒に頑張って 「どち 自分

> うにかしたいと思っても難しいです。 変わらずありますが、年寄りだけがど

田舎を何とかしたいという思い

くさんの人が集まって交流できる場を それでも今後も無理をしない程度にた

笑顔あふれる楽しい里にし続け

たいと思っています」と話してくれま

民宿の名前は藤森さんの

和やかに楽し

Vol.106

和子さん 藤森 (周東町在住)

農家民宿「和楽の里」 代表。民宿運営のほか、 耕作放棄地を活用した 親子での農作業体験や 小学校で地域の伝統料 理を教えるなど、世代 間や地域間の交流と体 験の場作りを積極的に 行っている。

という言葉を付けました。「人がたく 名前から一文字取り、そこに さん集まることが好きです。『楽しかっ た』という言葉を聞くとうれしくなる し、来た人の笑顔からパワーをもらっ 「楽しい

んちに来たみたいで懐かしいとよく言

たずまいで、

藤森さんは「おばあちゃ

動規模は縮小するつもりです。 今後も活動は続けていきますが、 国寿司の作り方を教えるなどさまざま や近所の人たちと小学校を訪問し、 を重ねたということもあり、徐々に活 な活動を積極的に行っている藤森さん 民宿以外にもサツマイモの収穫体験 年齢

舎が荒れるのが嫌でした。

今年で最後の開催となった、和楽の 里収穫感謝祭



▲民宿の周りには、豊かな自然が広 がっている

